

## 答 辞

冬に咲く花に命が芽吹くよ 駆けるは雪の大地

青すぎた春を忘れずに居たいと 語るは友との地図 駆けるは人の旅路

本日、私たちのために、このように荘厳な卒業式を挙げていただき、誠にありがとうございます。また、校長先生をはじめ、来賓の方々や在校生からの温かい励ましの言葉を頂戴し、卒業生一同、心より御礼申し上げます。

今、振り返ると、この都留高校で過ごした日々は、瞬く間に過ぎて行きました。

三年前、真新しい制服に身を包み、高校生活への期待と不安を抱いて迎えた入学式が、つい昨日のことのようです。頭の中で何度も予行練習をし、隣の席の級友に、勇気を振り絞って話しかけたことは忘れられません。校外オリエンテーションやSAキャンプ、スキー教室など、同じ時を同じ仲間と過ごす中で、次第に絆を深めることができました。声が枯れるまで校歌を叫び続けた応援練習は、今でも心に焼きついています。のど飴を舂め、チョコレートを隠し、互いに励まし合って乗り越えたあの日。都留高生としての自覚を持った瞬間でした。

二年次には、沖縄への修学旅行がありました。エメラルドグリーンの海でのマリンスポーツ、琉球ガラス、サーターアンダギー；、沖縄の自然や文化を体験した修学旅行は、とても充実していました。また、平和学習では、実際に沖縄戦を体験した方のお話を聴き、その悲惨な現実を目の当たりにし、大きな衝撃を受けました。私たちは戦争を知らない世代です。だからこそ、平和学習を通じて感じたことを発信し、後世に伝えていく。平和な世界を私たちの手で築き上げていく。それが今を生きる私たちの使命だと確信しました。多くの人の温かさにも触れました。優しいバスガイドさん、面白くて物知りなタクシーの運転手さん、私たちを本当の家族のように迎え、船が見えなくなるまで手を振ってくれた、おじい、おばあ。多くの出会いと経験は、一生の大切な思い出となりました。

部活動では、先輩方からバトンを引き継ぎ、新体制での活動が始まりました。後輩を導きつつ、自己の向上を目指すことは、容易なことではありませんでしたが、失敗や挫折を繰り返す度、人としても成長した気がします。自分を限界まで追い込んだ夏合宿、机に並ぶ食事の量に恐怖したこと、筋肉痛が全身を襲ったこと、夏が来る度に思い出すでしょう。厳しい練習や、上手くいかない苛立ちに、涙を流した日もあります。しかし、仲間と高め合いながら練習に打ち込んだことは、一生に一度の高校生活を彩りました。総体、インターハイ、コンクール、それぞれが、最後の目標に向かって努力し続けた日々は、今でも色鮮やかに輝いています。

いよいよ最終学年、三年間の集大成を示そう、と決意した矢先、新型コロナウイルスの世界的な流行により、突然、約三ヶ月間の休校を余儀なくされました。慣れないリモート授業や、外出自粛生活へのストレス。先の見えない不安に、心が押しつぶされそうでした。追い討ちをかけるように、目標として

いた大会の中止。今までの努力は、いったい何だったのか、コロナを恨みさえしました。そんな中で行われた若鶴祭。様々な制限の中、みんなで見えを出し合い、より良い学園祭を目指して全力を尽くしました。リモートでの開催、動画、クラスTシャツ。全てが初めての試みでしたが、仲間と一丸となって試行錯誤した一つ一つが、今となっては宝物です。若鶴祭当日、校舎中に歓声が響き渡った時、感動や達成感が胸一杯になりました。非常事態におけるこれらの経験は、私たちを大きく成長させ、どんな困難にも、乗り越える術があると、教えてくれました。

今年度新たに導入された大学入学共通テストに対しても、年次全体で立ち向かいました。朝早く登校し、遅くまで学校で勉強する仲間の姿にいつも励まされ、「受験は団体戦である」という言葉の意味を、身に染みて感じました。この都留高校で、切磋琢磨し合える仲間に出会えたことは、この上ない幸せです。三年間、本当にありがとう。

定時制課程においては、定時制であるがゆえに、学業と仕事の両立に挫けそうになることも、仕事のことでも悩むこともありました。そんな時でも学校に来ると、クラスの仲間に励まされ、勇気づけられ、今日までがんばることができました。四年間、本当にありがとう。

学校で授業を受けること、友人と笑い、話しながら食事すること、部活動に励むこと、当たり前の日常が、いかに恵まれたものだったのかを改めて感じました。休校期間を経て、また学校に通うことができ、数々の行事や、厳しい受験期を乗り切ってこられたのは、先生方や保護者の皆様、周囲の方々の支えがあったからです。皆様への感謝を忘れず、今度は私たちが誰かの支えとなれるよう、精進致します。

新型コロナウイルスの蔓延とそれに伴う社会不安、東京オリンピック・パラリンピック2020の延期など、今、世界は暗闇の中を彷徨っています。これからの日本を背負っていく私たち一人一人が、一筋の光となれるよう、不断の努力をしていくことをここに誓います。

本日、こうして旅立ちの日を迎えることができたのは、温かく見守り、ご指導くださった保護者の皆様や先生方のおかげだと、深く感謝しております。本当にありがとうございました。これから私たちは、それぞれの夢に向かって、一步一步、歩んでいきます。今後、どんな壁にぶつかっても、この都留高校で過ごした日々を人生の糧に、力強く生きていきます。

最後になりますが、皆様のご多幸と都留高校のますますのご発展を心より祈念して、答辞と致します。

(2262 字)

令和三年三月一日

山梨県立都留高等学校

卒業生代表

山口 敦也